



令和7年 12月 25日
冬休み直前号
No.483
発行責任者
校長 西村 学徳

不易流行

教務主任・習熟度別算数担当 石川 和哉



もうすぐ令和7年が終わろうとしています。令和8年のカレンダーが飾られている家庭も多いかと思います。この新しい年のカレンダーですが、教務主任の私は夏頃から手元に置きます。その頃から来年度の行事予定を組み始めるからです。日程を考える際には、教職員や保護者の方からの意見を取り入れ「前例踏襲にとらわれない」ということを頭に入れながら案を考えます。「前からやっているから」だけでは、子供たちに力は付きません。これから社会を生きるために必要な力を子供たちに付けることを意識し、行事の精選や内容の変更について柔軟な発想で取り組むことを意識しています。

反面、昔から行われていることの中には今でも大切にしたいこともあります。その一つが家庭学習です。正直、本校の子供たちにとって少し苦手としていることだと感じています。少しでもお役に立てばと思い、私の娘のエピソードをちょっとだけ…。

私には中学2年の娘がいます。小学生のときには宿題以外の勉強は全くと言っていいほどやりませんでした。習い事以外は、ほとんど家でずっとテレビを見ている感じでした。それでもテストに関しては悪くはなかったので、勉強しろと口うるさく注意をしませんでした。そんな娘が中学校に入り、その行動がガラッと変わりました。部活後帰宅すると、夕食・入浴以外は部屋にこもって勉強するようになりました。テスト3週間前の休日は少しの休憩を除き、朝から勉強するように…。勉強にかなり危機感をもったようです。

普段はほとんど会話がない父と娘ですが、テスト前になると数学の分からぬ問題を質問してきます。そこで気付いたのが、中学の数学の内容でも使っている考え方は小学校の算数とほとんど同じということです。娘に教えるときに「小学校の時にやったじゃん。」と言っても、「全く覚えてない。算数なんてちゃんと勉強していなかったから。」と算数の教員の娘とはあるまじき返答が。また「小学校のときにもっと勉強しておけばよかった。」とも。

そんな娘にも、最近ようやくこつこつと机に向かい、勉強し続けた成果が現れ始めました。また少しの成果でもそれが励みとなり、以前に比べ勉強にも前向きになった気がします。

本校では、4月に「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の大切さをお伝えしているところです。もちろん高校受験という大きな目標がある中学生と、小学生とでは学習への臨み方に違いがあるかもしれません。実際、私の小学5年の息子に姉の話をしても全くピンときていませんでした。ですが、



今の学年の学習内容を今のうちに理解させ、次の学年や学校に進めるようになることが大切なことは、小学校も中学校も同じです。

毎日の努力がすぐの成果となるわけではありませんが、努力をしない限り成果は現れません。私の娘が努力を積み重ねられたのは、結果には口を出さず、その姿を褒め続けた妻の言葉掛けも大きかったと思います。取り組み方を褒められた娘の表情を見ていると、大きな自信になったことは間違ひありません。

学習内容を理解するのには個人差があり、必要な時間も一人一人違います。そのため、宿題や家庭学習が重要になってきます。算数等はその日に学習したことを復習するために宿題を出しています。保護者の方には、お子さんの学習の様子を気にかけ、またお子さんの頑張りを今まで以上に大いに褒めていただけたらと思います。我が娘のように「小学校のときにもっと勉強しておけばよかった。」と後悔する児童を一人でも減らせるように、そして自分に自信をもって卒業できるように、これからさらに学校と家庭とが協力して取組を進めていければと考えています。